

高橋 隆史さん（平成8年卒）

東給食品株式会社 代表取締役社長

◇お仕事の内容を教えてください

業務用食品及び資材の販売を行う企業を経営しています。取扱品目は、冷凍食品、ドライ商品、チルド商品、魚切り身等の食品に加え、洗剤、消毒、ラップ等の資材です。

また、販売先は、学校・病院・施設等の給食から、レストラン等まで、広範囲に及びます。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

学校給食というのは小中学校の子供たちの体の基礎を作るものだと思います。そのような仕事に携われることに先ず喜びを感じています。

そして、子供たちにとって栄養面、健康面で良いものを、との思いを持って社員みんなで考えに考えた商品を提案し審査を経て提供に至るわけですが、その結果として、子供たちから「おいしかったよ」との言葉を貰えることが、何より嬉しいですね。

◇将来の夢を教えてください

夢といいますか願いになりますが、少子化が進む中、学校給食市場が縮小傾向にあるのは間違いありませんが、それでも、子供たちの体の基礎をつくる、未来をつくることに繋がる仕事にはずっと携わっていきたいと思っています。

また、業界、団体等で知り合った仲間・同志等とトークを重ねることが自分を成長に繋がると感じているし、楽しいので、そういう時間を大切にしたいですね。

加えて、食品事故の発生防止のため、適正な衛生管理等に関する知識・ノウハウ等に関する学びも継続しなければならないと考えています。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

3年間、野球部に所属していましたが、今思えば凄く有意義な3年間だったですね。

今の自分の考え方というのは主に野球部で培われたものだと感じています。

でも、やはり、当時は本当にしんどかったですね。練習も辛かったです。

それでも続けられたのは仲間の存在でした。今でも当時の仲間とは繋がっていますし、一生ものだと思います。

また、先生方にも恵まれましたね。今でも目に浮かびますが、遅刻して「やばい」と思いながら自転車置き場に向かっていて先生の姿が見えたので隠れてしまったんですが、見つかってしまい厳しく指導頂いたのも今では、凄く感謝しています。

（※次ページは「専北生に伝えたいメッセージ」です）

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

自分が高校生の頃は「若いうちはチャンスがある、失敗しても大丈夫」と言われてもその意味が分からず、先の見えない日々を過ごしていました。今もそんな思いを持つ生徒や、目先の目標だけを追っている生徒が多いのではないのでしょうか？

自分の経験から、「ゴール、目的を描いて欲しい」と伝えたいですね。

「最終ゴール・目的を先に描き、逆算して、ならば、何歳で何をするのか」を考えて欲しいです。

例えば「東大に入学する」との目先の目標を追いかけても最終ゴールを描いていなければ合格してもそれで終わりですよ。例えば「〇〇の仕事をしたい」とのゴールを描き、そのためには〇〇の知識を深めねばならない、そのためには、大学で〇〇の勉強をしたい、とゴールから現在に逆算し、勉強の目的を明確にして考えれば、先が見えて立ち止まらなくてもすむと思います。

この考え方を多くの若者に伝えたいですね。

☆取材後記

ご自身が小学生のお子さんを持ち、小学校のPTA会長を務めて4年目になる、という高橋さん。子供たちの健全な成長に向け、食の安心、安全に熱い思いをお持ちでした。

また、専北生へのメッセージについては、「ゴール・目的を描く。出来れば、人生設計も」と語られていますが、ご自身の目線で人生を振り返り出てきた言葉だけに真実味があります。

確かに、先にゴールを描きゴールに至る道筋を描けば、今、やるべきこと、その後にやるべきことが明確となり、やる気が出てきます。

是非、多くの皆さんにお勧めしたいメッセージです。(担当：Y)